

山口県病院協会 会報

2024 1月号 No.82

●発行日 令和6年1月1日
●発行所 一般社団法人山口県病院協会
〒753-0814 山口市吉敷下東三丁目1番1号
●電話 083-923-3682
●FAX 083-923-3683
●発行人 三浦 修
●印刷所 大村印刷株式会社
●メールアドレス info@yha.or.jp
●ホームページ http://www.yha.or.jp



年頭のご挨拶

会長 三浦 修

明けましておめでとうございます。皆様、新たな決意を胸に新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染拡大の対応に迫られた3年余りが過ぎ、感染症としての扱いが2類から5類へ移行したといっても、医療機関にとっては依然多くの課題と取り組みながら、日々の診療に力を注いでいることと存じます。私たちは、感染対策とクラスター発生防止に神経を尖らせつつ、日常の診療ができることがいかに有難いことかと感謝する日々を過ごしてきました。非常時における医療機関の経営というものが、いかに脆弱で不安定なものかと痛感し、限られた人的、物的医療資源を最大限効率的に使いながら、この難局を乗り越えてきました。

4月には、診療報酬改定が行われますが、今年は介護報酬、障害福祉サービス等報酬との同時改定の年でもあります。コロナ禍の余波で患者さんの受診抑制が持続し、さらに光熱水道費や食材料費、各種保守料、業務委託費の増加も確実に医療機関の経営を圧迫しており、診療報酬という公定価格の中で経営を継続していかなければならない以上、医療機関の存続にも大きく関わってくる問題と言えます。地域の医療提供体制を支える医師、看護師、医療スタッフなどの人材確保のためにも、入院基本料を含めた診療報酬の前向きな改定を強く求めて行かなければなりません。

本年からの第8次保健医療計画の中で、県は「地域医療の関係者が適切に役割を分担し、相互に連携を図ることにより、地域全体として必要な医療提供体制を構築する」と謳っており、特に5疾病・6事業（新興感染症医療が加わりました）・在宅医療・外来医療について、地域に必要な機能や目指すべき方向性を明確化するとしています。

県内の地域医療構想調整会議の中でも、これからの人口構造、疾病構造の変化に基づいた実り有る議論が求められます。2040年までに少子高齢化はさらに進み、複合ニーズを抱えた高齢者が増え、それを財政面・人的資源面で支える現役世代人口が大幅に減ってきます。急性期医療においても、しばしば認知症や高齢者患者に対しての対応が必要とされる機会が増え、治療前後のリハビリテーションを如何に効率よく行い、できるだけADLを低下させないでもととの生活環境に復帰して頂くことが目標となります。

医師の働き方改革は、決して医師だけの問題ではなく、タスクシフト、タスクシェアの動きも含め、しっかりとした多職種協働のチーム医療を実践するところから生まれてくるものと思われます。医療職の健康保持を担保し、かつ地域医療提供体制を維持していく中で、それぞれの医療機関が、各地域の医療ニーズに沿った自施設の役割を果たし、他の医療機関との連携の中で最大限の機能を発揮していくことが求められます。

今年が皆様にとりまして、ますます健康で飛躍できる年になりますよう心から祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

CONTENTS (目次)

山口県病院協会会長挨拶	1 ページ
関係団体挨拶	2 ページ
協会役員コーナー	3 ページ
病院スタッフコーナー	4～5 ページ
医療経営講習会報告	6 ページ
研修会報告	7 ページ
諸会議報告	7 ページ
トピックスコーナー	7 ページ
お知らせコーナー	8 ページ

年頭所感

年頭所感 ～新しい時代に向かって～



山口県健康福祉部
部長

國吉 宏和

明けましておめでとうございます。

新春を迎え、謹んで新年のお慶びを申し上げますとともに、皆様にとりまして、本年が素晴らしい年となりますことを、心からお祈り申し上げます。

また、平素から、本県の保健医療行政をはじめ県政全般にわたり、格別の御理解、御協力をいただいておりますことに、心から感謝申し上げます。

さて、昨年は新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、社会・経済活動の正常化の動きが進んでおります。これまで3年以上にわたり、山口県病院協会の皆様方には、診療・検査はもとより、病床の確保やワクチン接種など、感染拡大防止に多大なる御尽力をいただきましたことに、改めて深く感謝申し上げます。

県では、県政運営の指針となる「やまぐち未来維新プラン」を策定し、「安心・安全」、「デジタル」、「グリーン」、「ヒューマン」の4つの視点で、これまで挑戦してきた産業維新・大交流維新・生活維新の「3つの維新」をさらに進化させ、未来に希望を持って暮らせる『安心で希望と活力に満ちた山口県』の実現を目指して取組を展開しているところです。

とりわけ、コロナ禍を経験し、県民誰もが、地域医療が医療関係者の皆様の御尽力の上に成り立っており、いつでも安全で良質な医療サービスの提供を受けられることが決して当たり前ではないことを強く実感したところであり、いつまでも安心して暮らし続けられる基盤を築く「生活維新」を実現するためには、地域にふさわしいバランスの取れた医療提供体制を構築することが重要と考えています。

さらに、本年は、本県における総合的な保健医療提供体制の指針となる「第8次山口県保健医療計画」を策定し、新たな計画に基づく取組のスタートを切る重要な年となります。

策定作業は大詰めを迎えており、山口県病院協会の皆様方には、医療審議会や各分野の協議会への参画等を通じ、地域医療の現場を担うお立場から貴重な御意見をいただいておりますことに、感謝申し上げます。

この新たな保健医療計画の策定を着実に進め、県民の皆様が生涯を通じて、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、質の高い保健医療を持続的に提供できる体制の構築に取り組んでまいりたいと考えています。

もとより、こうした保健医療施策を着実に進めていくためには、山口県病院協会の皆様方のお力添えが不可欠であり、一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、山口県病院協会の益々の御発展と、会員の皆様方の御健勝、御多幸を祈念して私の年頭のあいさつとさせていただきます。



協会役員コーナー

“資本論を読む”を読む



周南市立新南陽市民病院
病院長

松谷 朗

明けましておめでとうございます。この3年、4年はあっという間に過ぎてしまった感があります。世界的にもコロナ、ウクライナ、さらに昨年末にはイスラエル—ハマスの戦闘と続き、人類混迷の極みと言えます。国連、国際法、人類共通の倫理感などが全く機能していません。紛争の根本的な解決の糸口さえ見出せない状況です。日本国民はただただ指を加えて見つめているだけと言うのが実状ではないでしょうか。

国内政治に目を移すと、これまたリーダー不在の混乱の日々であり、なかなか日本の浮上が期待できません。そのような中で、来年度は医療と介護の一体改革、地域医療構想の早期の実現と、医療を取り巻く環境も一段と厳しさを増してきてくることは間違いありません。こう言う時だからこそ、医療を担う我々は医療の基本に立ち返り、患者さんの満足度を最大限にあげる努力をしながら最新の医療を行なっていくことしかないと思います。かねてより一度はマルクスの資本論に挑戦したいと思っていましたが、まずはその解説書を読んでいる状況ですが、それを読んでふと奇妙に感じたことがあります。本来技術的革新（医療・医学の進歩）により、簡単に製品（診療・医療・手術）を産生できるようになると生産コストは下がらないといけないのに、実際にはコスト（医療費・技術料）などは上がっていますよね。そこを論じるとスペースが足りませんが、“あれ”ではなく、“そこ”に問題があると思います。

なにはともあれ、今年は辰年で昇龍を期待しましょう。皆様に輝かしい年となることを祈念して新年の挨拶とします。

へき地代診医登録について



一般社団法人岩国市医師会
岩国市医療センター医師会病院
病院長

茶川 治樹

新年明けましておめでとうございます。皆様方におかれましては、新年を健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の流行により、それぞれの医療機関が大変な思いをした4年間となりました。また、去年は物価高騰により、燃料費や食材費が医療機関経営に大きく影響を与える1年間になりました。今年は穏やかな1年間になることを願っています。

私は県医師会の常任理事をさせていただいていますが、私が担当する県医師会の事業に、若手医師の県内定住支援があります。その事業の中の一つに、代診医登録制度があります。自治医科大学等卒業医師が離島・山間部のへき地の医療機関に勤務しているときに、出席したい学会などがあっても、長期間休診にすることは住民にとって困ることなので躊躇することがあります。現在、そのような場合はへき地中核病院から代診医が派遣されていますが、十分な対応ができていません。へき地に勤務する医師が、学会などに定期的に出席でき、学ぶ機会を支援することは、彼らの県内定住に繋がると考えます。県医師会は、県内の医師会員に対して、代診医としての出務に協力できる先生を登録する制度を創設しました。すでに各郡市医師会には登録票をお配りしていますので、関心のある先生がおられましたら、ぜひご登録をお願いします。

病院スタッフコーナー

地域に選ばれ役立つ病院を目指して



医療法人 仁保病院
精神保健福祉士
相談部
部長

佐内 節子

新年あけましておめでとうございます。

当院は、山口県中部の山口市仁保にある病院です。周りは自然豊かで、まれに駐車場に猿が出没することがあります。

当院は、昭和51年4月1日に認知症高齢者専門医療機関として開設しました精神科病院です。認知症に対して、精神医療の面からの治療・看護を実践する「精神療養病棟（120床）」「認知症治療病棟（103床）」「重度認知症患者デイケア（50人）」を有しております。

私の所属する相談部には、病院開設当初は1名でしたが、現在は、精神保健福祉士が6名（病棟・外来4名 デイケア2名）在籍しています。病院内からの相談、電話や来院からの受診相談等は、私たちが担当します。受診関係の相談者は、患者様ご本人やご家族、介護保険担当者や行政関係者等多岐に渡ります。初回受診後、通院や入院、デイケア利用等患者様の行かれる場所には、精神保健福祉士が配置され、常に「橋渡し役」を意識して支援を行っています。またご家族の気持ちに寄り添い支援する為に、平成2年（1990年）に「仁保病院家族会」を発足以来この活動に関わっています。コロナ禍で中断しましたが、令和5年（2023年）後半から活動を再開しました。

県の高齢化に伴い、患者様やご家族のニーズも多様化し支援の方法も変化しています。また認知症にも、新薬の開発や承認などで、「治療」に向けての取り組みも進んでいます。

今後、どのような変化が来ようと、開設当初からの「地域に選ばれ役立つ病院」の理念の元で、励んでいきたいと思っています。

心通わす3配り



社会医療法人いち樹会
尾中病院
介護福祉士
通所・訪問リハビリテーション室
室長代行

三戸 亜希子

新年あけましておめでとうございます。

当院は、宇部市の中心部に位置し地域包括ケアシステムの中で高次機能病院や診療所、福祉施設などを繋ぐハブ機能を果たす地域密着型のケアミックス病院です。「あなたとずっと『いきる』を考える」を理念に医療介護とシームレスなサービスの提供を目指しています。

私は院内に併設しております通所・訪問リハビリテーション室で生活相談員として勤務しておりますが、入職した当初は介護事業の立上げから日が浅かったこともあり、通所・訪問リハビリテーションという事業そのものが院内でも深く理解されておらず、サービスを提供するスタッフも自分達が目指すべき事業所像が漠然としているような印象でした。そこで、まず取り組んだのはブランディングです。自分達がどのような事業所で働き、何を大事にしたいのか、またどのようなサービスを提供したいのかを明確にしてそれぞれの職種に応じた業務分掌を行いました。その際、誕生した事業所コンセプトが『目配り・心配り・気配りの3配り』です。

3配りとは、「一人ひとりが安全に過ごせるよう目を配る・来院時から帰宅時まで笑顔で過ごして頂けるようご利用者様の心に寄り添う・求めていることをくみ取り平等に対応するよう気を配る」を覚えやすく表現したものです。この3配りをベースに職種ごと・役割に沿った理念と行動指針も考えました。目指すべき目標を共有したことで職種ごとに意見がバラバラだったスタッフ達が1つのチームとして意見を出し合えるようになりました。また、「みんな違ってみんないい!」の考えを発信し自分らしくある事を大切にしています。そうすることで、楽しく自由な雰囲気が生まれ、ご利用者様もその雰囲気を好まれているように思います。

これからも、私達は掲げた理念や行動指針を軸にご利用者様にここに来て良かったと言ってもらえるよう日々精進していきます。

病院スタッフコーナー

神経筋難病医療と地域に根ざした医療の提供を



特定医療法人茜会
脳神経筋センター
よしみず病院
理学療法士

宇野 健太郎

新年あけましておめでとうございます。

当院は下関市西部地域にあり、2021年12月1日に新築移転し、脳神経筋センターよしみず病院として開院しました。特色として神経筋、難病疾患を専門とし、在宅療養後方支援病院の機能を有する地域密着型の病院です。系列施設など含め、訪問診療や訪問看護・リハビリ、通所サービスなども行っております。

私は当法人リハビリテーション部に15年在籍しております。リハビリ部では、先進機器を導入してニューロリハビリテーションに取り組んでおります。主なリハビリ機器として「VR型リハビリ支援システム（Vi-dere）」を使用した半側空間無視の評価や治療、上肢リハビリロボット「ReoGo-J」や電気刺激療法などを積極的に使用し機能回復練習を行っており、リハビリ業界においても革新的な技術が応用されてきたと実感しております。リハビリ室には「天井レール走行式免荷リフト」があり、重症度が高い患者さん

でも歩行練習を安全に行う事が可能です。また、パーキンソン病患者に対するエビデンスが確立された運動療法なども提供しながら、日々を過ごしております。

これまで、リハビリスタッフや多職種の協力、地域医療との助け合いがあり、充実した仕事を行うことができたと思っております。今後も地域の皆様に安心、安全かつ先進的な医療、リハビリテーションが提供できるように、チーム一丸となり精進して参ります。

医師情報交換会を開催しました



山口県厚生農業協同組合連合会
長門総合病院
地域医療福祉連携室
師長

松野 多希子

新年あけましておめでとうございます。

当院は一般病床・地域包括ケア病床・医療療養病床を持つケアミックス病院です。急性期医療が必要となった人の診療所からの紹介、施設入所中で医療の必要性が生じた人の受け入れ、医療的ケアが必要で日常介護が一時的に困難になった方の入院調整などを連携室が中心となって対応しています。

今年度よりさらなる地域医療の連携促進を目的に、副院長を部門長とした地域支援部門が院内に設置され、私も連携室の一員として参加しています。活動の一環として「地域医療における顔の見える関係づくりと情報交換」をテーマとした医師情報交換会を11月に開催しました。JA山口厚生連の周東総合病院がすでに取り組まれている企画であったため、教えていただきながら部門メンバーでプログラム等を検討しました。医師会や各病院からのあいさつ、参加者紹介、症例発表、グループでのフリートークなどをプ

ログラムに盛り込みました。当院では初めてのこころみでしたが、当院医師を含め、長門市、美祢市の診療所、病院に勤務する41名の先生にご参加いただきました。終了後のアンケートでは、多くの先生が「有意義な会だった」と回答してくださり、スタッフ一同安堵しております。

連携室で勤務をして4年目になりますが、院内スタッフはもちろん、地域の医療、福祉に携わる皆様に支えられていることを実感する毎日です。私たちも誰かの支えになれるよう、連携室スタッフみんなで様々なことに取り組んでいきたいと思っております。

医療経営講習会報告

令和5年度 冬期医療経営講習会

令和5年12月13日（水）、4年ぶりとなる医療経営講習会が、山口市湯田温泉のかめ福オンプレイスにて開催された。講師には日本病院会相澤会長をお招きし、68名が参加した。

テーマ 「病院の未来を拓くために 我が国の病院医療の現状とこれから
—日本病院会の目指していること—」

講 師 一般社団法人日本病院会会長

相澤 孝夫 氏（社会医療法人財団慈泉会理事長、相澤病院最高経営責任者）



日本病院会会長 相澤 孝夫 氏



講習会風景



医療法人社団向陽会
阿知須同仁病院
理事長

西田 一也

～令和5年度冬季医療経営講習会に参加して～

2019年3月以来の実施となる医療経営講習会は、経営主体の区別なくあらゆる病院が参加する代表的な病院団体である（一社）日本病院会の相澤孝夫会長をお迎えして、初めてかめ福オンプレイスで開催されました。

まず冒頭に、2024年4月の診療報酬改定における「入院基本料の引き上げに関する嘆願書」の提出をされたことのご報告がありました。この嘆願書には4,600病院をこえる賛同の署名が達成できたとの事で、病院診療の現場の声を力強く届けるための陳情をしていただいております。

相澤会長が経営しておられる病院のある長野県といえば、今世紀初頭、県民平均寿命が高く一人当たりの医療費の少ないという健康優良県として有名となり、近年でも活発な取り組みで高齢者就業率も高く維持できている地域医療先進エリアが存在するということで、わが県の現状を垣間見られて、まさかお叱りのお言葉を賜る講演内容になるのでは、と内心、心配しておりましたが、おだやかにまさに病院経営者のお立場から、冷静で重みのあるお話でした。現場における患者さんのためのteamingを奨励することから、あらゆるデータを駆使し、自院または関連する病院が、地域での役割を果たし、思い描く未来の姿に向かって組織マネジメントを成し遂げることを強調していただきました。

終盤の質疑応答の中では、山口は明治維新発祥の土地柄なのだから、小さい事から積み上げて、手にできることをしっかり活用する事を進められるはずでは、という有難いお言葉をいただいたように思います。

研修会報告

令和5年度 医療経営セミナー

令和5年11月30日（木）、セントコア山口において、山口県医療法人協会との共催で医療経営セミナーを開催した。山口労働局の講師により、労務管理について実際に寄せられた相談事例に基づいた解説が行われ、43名が受講した。

テーマ 「医療機関向け労務管理講習会」

講師 山口労働局労働基準部監督課
末廣 高明 氏



末廣 高明 氏



セミナー風景

諸会議報告

令和5年度 第3回理事会

日時 令和5年10月6日（金）15:00～16:00

開催場所 セントコア山口

【承認事項】

1. 「循環器病対策県民フォーラム・やまぐち健康経営フォローアップ講習会」の開催における共催について
2. 「令和5年度山口県肝疾患コーディネーター講習会」の後援について
3. 「日本医療マネジメント学会第22回山口県支部学術集会」後援のお願い
4. 「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2023やまぐち」への後援申請について
5. 「第20回山口県ケアマネジメント研究大会」への後援依頼について

【協議事項】

1. 冬期医療経営講習会の実施について
2. 四県病院協会連絡協議会の開催および提案議題について
3. 西京銀行との金融懇談会の開催について

【報告事項】

1. 山口県医師会との懇談会について

2. 県行政委員等の推薦について

- ・山口県医療対策協議会委員
会長 三浦 修（再任）
- ・山口県医療対策協議会委員
監事 尾中 宇蘭（再任）

3. 県各種委員会等の結果報告について

- 三浦会長
・令和5年度第1回山口県医療対策協議会専門医制度部会（8月21日）
- 神徳副会長
・令和5年度第2回山口県感染症対策連携協議会（9月12日）

【その他】

- ・光熱費の推移を把握するためのアンケート実施について、ほか

令和5年度 第3回情報管理委員会

日時 令和5年12月14日（木）15:30～16:30

開催方式 Zoom開催

【協議事項】

1. 新年号の発行について
2. 4月号の発行準備について
3. その他

トピックスコーナー

「重点支援地方交付金」を活用した医療機関への支援に関する要望書の提出について

昨年に続き重点支援地方交付金が閣議決定されたことに伴い、医師会・歯科医師会・薬剤師会との連名にて要望書を作成し、11月20日（月）に村岡県知事、柳居県議会議長に提出してまいりました。内容としては、水道光熱費支援等として昨年同様の支援に加え、食材料費支援についても実施いただくよう要望しております。



お知らせコーナー

山口県医師会との懇談会

令和5年9月29日（金）、山口市湯田温泉「松田屋ホテル」において、山口県医師会との懇談会が開催されました。山口県医師会からは加藤会長ほか計3名、山口県病院協会からは神徳副会長ほか計4名が出席し、物価高騰や賃金上昇を踏まえ、公定価格である診療報酬のアップ等にかかる要望書を提出することや、人員確保など医療環境を取り巻く諸問題に関する意見交換を行いました。

第20回 山口県ケアマネジメント研究大会

第20回 山口県ケアマネジメント研究大会が、山口市小郡で開催されますので、ご案内いたします。

日 時 令和6年3月24日（日）10：00～16：30

実施方法 会場参集及びZoomを併用したオンライン開催

会 場 KDDI維新ホール メインホール（山口市小郡令和1丁目1-1）

問合せ先 一般社団法人 山口県介護支援専門員協会（TEL：083-976-4468）

会員等の異動

会員の變更	變更後	變更前
・柴田病院	病院長 西田 輝夫	病院長 高芝 潔
・宇部第一病院	理事長 南 博朗	理事長 東 光生
・西宇部病院	理事長 田中 隆穂	理事長 田中富美子
・全真会病院	理事長 中村 丘	理事長 中村 勝昭

病院協会の主な行事予定

○1月16日	西京銀行との金融懇談会	（会場：igrec）
○1月18日	第4回理事会	（会場：山口グランドホテル）
○1月26日	四県病院協会連絡協議会	（会場：山口グランドホテル）
○2月上旬	正副会長・顧問会議	（会場：未定）
○2月中旬	第1回総務委員会	（会場：未定）
○3月13日	第4回情報管理委員会	（会場：セントコア山口）
○3月下旬	第5回理事会	（会場：未定）

編集後記

◆2024年度の診療報酬改定率は本体部分0.88%と低く抑えられた。病院にとって厳しい状況が続く◆社会保障制度は、国民個人を守ると共に、社会全体を守るための仕組みだ。「国民が健康に暮らし活動し続けられる」ことで「社会は安定」する。医療や福祉の現場で働く我々は、コロナに命がけで立ち向かい、病気や怪我をした国民を社会復帰させ、家族の介護が必要になっても働き続ける事ができる世の中を実現し、その役割をしっかりと果たしてきた◆ところが、「社会保障費の増加が国の成長を圧迫する」等の間違った認識が広められている。国を発展させ経済を成長させるのは、政治や経済界の役割だと考える。（木下 祐介）